

ICTを活用した国際協働学習 iEARN “Girl Rising Project”

啓明学園中学校高等学校 関根 真理

1. グローバル人材に必要とされる資質・能力

これからの時代のグローバル教育を考える上で、重要な視点が3つある。1つは、国際団体「ATC21s」が提唱する「21世紀型スキル」の習得である。21世紀型スキルには「批判的思考力」「問題解決能力」「コミュニケーション力」などがあり、これからの社会を生き抜く上で必要な能力であるとされている。また、これらのスキルを習得するには「ディスカッションやグループ作業中心」「ICTのスキル習得に向けた教育」「記述式問題」など、論理的思考能力やコミュニケーション力を重視した教育が必要であると言われている。

2つ目は、SDGs (Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標) である。これは、国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標である。SDGsは持続可能な世界を実現するために17ゴール・169ターゲットで構成され、地球上の誰一人として取り残さない (Leave no one behind) ことを目標として掲げている。昨年には経団連が Society 5.0 for SDGs の推進を図るために、「Innovation for SDGs - Road to Society 5.0 -」を発表したこともあり、日本でもSDGsが広く知れ渡るようになった。

3つ目は、国際協働学習である。グローバル化や情報化が進み、他国の生徒と共に学び合う協働学習は、これから益々求められていくことが予想される。このことは、文部科学省が将来の人材育成のために、高大連携や産・学・官が力を合わせて高校生への高度な学びを提供する仕組み (WWL) を2019年に構築し、高校生国際会議や高等学校のアドバンスト・ラーニング・ネットワークの機会を新たに設けたことからも見えて取れる。本資料では、21世紀型スキルやSDGsを実現する力を習得するために、高校3年生の選択授業「国際理解」で行っているICTを活用した国際協働学習の事例を紹介する。

2. 啓明学園高等学校・選択授業「国際理解」の取り組み

本校は1945年の創立当初から海外との交流を大切にし、様々な国の文化に触れる体験の機会を設けている。世界について学び、グローバルスキルを身につけ、世界のために行動する「Peacemaker (平和を築く人)」として世界をつなぐ教育を大切にしている。また創立当初より帰国生の受け入れに力を入れており、現在でも帰国生や留学生などの異なるバックグラウンドを持った生徒が多く在籍して共に学んでいる。

「国際理解」の授業では、2012年よりJEARN(グローバルプロジェクト推進機構)を通じてiEARNのメンバーとなり、他国との協働学習を開始した。iEARNとは、オンライン上で国際協働プロジェクトを行うプラットフォームであり、1988年より「学校と地域との連携」を基礎に150以上もの国境を超えたプロジェクトが英語で展開されている。

iEARNの一般的な交流方法は、様々なプロジェクトの中から興味・関心のあるプロジェクトに参加することから始まる。各プロジェクトでは、各々が意見・質問・成果物などを投稿し、他国の生徒と意見を交換することができる。また、気がついたことの振り返りを互いに行うことで、多角的な視点で自分の考えを深めることができる。各校では、オンライン上のコミュニケーションと同時並行で

オフラインでの学習を進める。そしてプロジェクトの後半では、各校での学びを目で見える形にまとめてインターネット上で共有する。その後、スカイプや ZOOM などを用いた遠隔交流授業を行う。時差等の問題で時間を合わせることが困難な場合は、ビデオレターなどを通しての交流を行うこともある。そして、最後に各校で振り返りを行い、学んだことを整理するのが通常の流れである。

iEARN の国際協働プロジェクトの中で日本人がファシリテーターを務めるプログラムには、平和学習、環境教育、国際交流などがある。これらは JEARN で紹介されている。はじめに、本校では「まちゃんと『Hiroshima for Peace』」という戦争と平和について取り上げた絵本を軸に協働学習をするプロジェクトに参加した。生徒は「まちゃんと」を読んだ後にインターネット上のフォーラムに入り、原子爆弾について調べたことや、絵本の感想・自分の考えや願いなどを投稿した。さらに 2012 年の「国際理解」では、生徒がグループに別れて「平和」をテーマにした英語の紙芝居を創作し、フォーラムに投稿した。それ以降、本校は毎年 iEARN のプロジェクトに参加している。

2.1. Girl Rising Project

2014 年には、本校では「国際理解」の授業を担当している筆者が新しいプロジェクト“Girl Rising”のファシリテーターになった。筆者はノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイ氏の勇気ある行動に共感し、「女子教育の大切さ」について互いに学び合うプロジェクトを iEARN の Teachers Forum に提案した。その後、Ed Gragert 氏より連絡があり、彼と共に新プロジェクトを立ち上げることになった。Ed Gragert 氏は、アメリカ出身で元コロンビア大学教育学部の教授であり、1990 年から iEARN の中心メンバーとして活動し、iEARN-USA や Global Campaign for Education-US などを通して質の高い教育の必要性を提唱している教育者である。



“Girl Rising”プロジェクトでは、ドキュメンタリー映画 “Girls Rising”を視聴し、他国の生徒と議論して学びを共有する。映像では 9 ヶ国（アフガニスタン・インド・エジプト・エチオピア・カンボジア・シエラレオネ・ネパール・ハイチ・ペルー）の少女たちが置かれている状況が映し出され、プロジェクトに参加している生徒はそれぞれの問題について知ることになる。これらの地域では、女性差別や偏見が今も根強く残っている。しかし、少女たちは置かれている環境を変えるために勇気を持って行動し続け、その地に変化をもたらすことになる。この映像を視聴して、生徒は諦めずに前進する姿勢を学ぶことができる。このように、“Girl Rising”は若い人々に対して学ぶことは権利であり、学ぶことで知識や将来の可能性を広げ、自らの力で未来が拓けることを伝えるのに最適な教材であると考えている。さらに 2013 年には“Girl Rising”の映像フィルムを制作した団体が NPO となり、世界中の教育者がこのカリキュラムをインターネット上で閲覧できるようになったことも追い風となった。また、“Girl Rising”は SDGs を軸とした問題解決学習ができる教材であり、特に SDGs の目標 4「質の高い教育」と目標 5「ジェンダー平等の実現」に焦点が当てられている。



2.2. 2018 年度の授業実践

本校で高校3年の選択授業「国際理解」に Girl Rising プロジェクトを取り入れるのは、今年度で6年目となる。2018年度は、本校の24名の生徒がプロジェクトに参加した。開始する数ヶ月前には、iEARN の Teachers Forum で一緒に活動する学校を募った。その結果、アメリカ、イスラエル、インド、ウガンダ、ジョージアおよびセネガルの高校生と協働学習をすることが出来た。



◆ネパールの少女 Suma

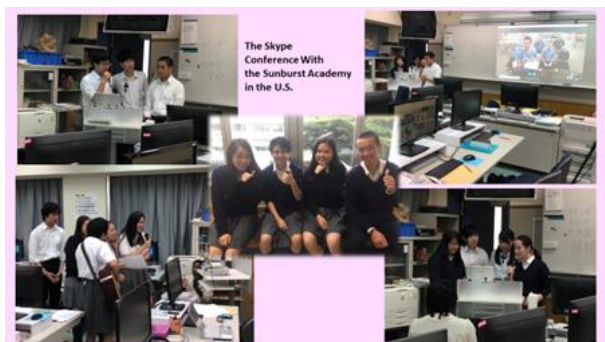
2018年度は、映像の中のカンボジア、ハイチ、ネパールの少女のストーリーを取り上げた。1学期に特に力を入れたのは、ネパールの少女 Suma のストーリーである。

(概略) Suma は、女の子として生まれたことで、両親から差別を受けてきた。兄は学校に行って教育を受けられたのに対し、彼女は他人の家に送られ、強制的に児童労働を強いられた。これは、現在もネパールで実在する“Kamlari”という風習である。“Kamlari”は違法であるにもかかわらず、親の借金を理由に、現在も多くの子供が児童労働をしている事実がある。Suma は幼い時から働き、学校に行くことができなかったが、16歳の時に初めて夜間のみ学ぶことが許された。その後、Suma はソーシャルワーカーの協力のもと、“Kamlari”が違法であることを雇い主に何度も訴え、ついに児童労働から解放された。そして、Suma は同じ境遇にある女子が解放されるために立ち上がり、児童労働の違法性を訴え続ける。



映像を視聴した後、各国の生徒は「女子の人権が守られないのはおかしい」「教育を受けられないのは不平等だ」「ネパールの風習について他国は介入することができるのか」「違法であっても継続されている風習はどうしたら解決することができるか」などと述べ、意見を活発に交換した。

さらに6月には、アメリカ、カリフォルニア州にある Sunburst Academy 校の生徒と遠隔交流授業を実施した。交流授業では、Girl Rising の内容だけではなく、両国の男女差別や児童労働の有無、教育の格差や高校生活の内容などについて紹介し合った。さらに、お互いの国で流行していることや文化の違いについて質問し合い、将来の夢などについても伝えあった。



2学期には、アフガニスタン、インド、ペルーの少女のストーリーについて学び、1学期と同様に6ヶ国の生徒とそれぞれの考えを共有した。アフガニスタンの少女 Amina のストーリーからは女性差別や早期結婚の問題を、ペルーの少女 Senna のストーリーからは児童労働を議題として取り上げた。オンラインフォーラムでは国境を越えた議論が白熱し、各国の生徒は多様な意見を知った上で、自らの考えを深めることができた。例えば、イスラエルのベドウィンの生徒からは、早期結婚はベドウィン

でも当たり前のようにある風習だと聞いた。それは、ベドウィンにとって進学に費用がかかるため、女子が嫁ぐことで家計が助かるという理由によるものだった。そのようなベドウィンの考え方に対し、本校やアメリカの生徒は、変化を起こすために自分の意思をはっきりと伝えることが必要だと投稿した。すると、セネガルの生徒は、伝統的に守られてきた慣習に対して、それは間違っていると主張することは簡単なことではないと反論した。このような意見は、実際に早期結婚の問題を抱える環境にいるセネガルの生徒だからこそ言える発言であった。以上のような事例に見られるように、異なる文化を持つ生徒が共に学ぶことで、様々な視点から議論を深めることができた。

◆ポスタープレゼンテーション

本校の生徒は学びの振り返りとして、協働授業を通して学んだことについてポスターを作成し、まずは授業内で発表した。以下は生徒が作成したポスターの一例である。



その後、Girl Rising のオンラインフォーラムで、プロジェクトとして学んだ事とポスターを投稿した。以下は、生徒がオンラインフォーラムに投稿した内容の一例である。

◇ *The basic idea of a perfect society varies according to each individual, but the same general concepts usually remain quite similar: highly advanced technology, beautiful landscapes in hundreds of different shades of green, with plentiful amounts of peace and happiness.*

Gender equality, however, is something that seems to be left out of the typical picture of the “perfect society”. Even in one of the most developed nation where “all men are created equal”, there are so many restricting gender roles woven deeply in to society. Consequently, creating discriminations based solely on the gender of another human being. Gender roles have been suffocating women since the beginnings of social standards and norms. In order to create the



“perfect society” that is imagined by authors and dreamers all over the planet, the idea of missed opportunities because of confined gender roles needs to be thrown away. But sadly, just like war, gender inequality has not vanished. Especially when gender roles are related to the country’s religion or culture. It is more difficult to change the strict prejudice of how a woman should be.

However, the biggest problem about gender inequality is that most women are simply

unaware of it. Through Girl Rising, we saw many young girls discover gender inequality in their society and fought against it. Through Girl Rising, we saw many young girls discover gender inequality in their society and fought against it. And thanks to them, we can now see gender inequality in the world too. The next move for us is to fight against it just like all the brave young girls in Girl Rising did. Even if 100% gender equality is something that can never be achieved, we have learned that it is something so worth fighting for.

〈要約〉

「完璧な世界を考えた時、多くの人々は高度なテクノロジー、緑豊かな自然、平穏な日々などを思い浮かべるが、女性の人権については忘れられがちだ。先進国においても「全ての人間は平等だ」と区では言うが、女性であるがために阻害される場が存在するのが現実だ。風習や宗教が関連するとさらに、女性への偏見を変えることは難しい。しかし、大きな問題は、多くの女性が差別を受けていることに対して無知でいることだ。”Girl Rising”を通して、少女たちが社会での差別と戦う姿を観た。私たちも同じように、勇敢に差別に対して立ち上がるべきだ。たとえ、100 パーセントの差別を無くすことが出来ないとしても、価値のある戦いだということを学んだ。」

And More ...

Take a look at what the students at Keimei Gakuen High School in Tokyo created for their final project. The class was part of the 2018 iEARN Girl Rising project that over the past few years has included collaborations between schools in more than 40 countries. See the slide show [here](#). And for more information on the iEARN Girl Rising Education for All project go [here](#).



本校の 2018 年度の取り組みは、iEARN アメリカ本部が運営している Girl Rising Educators Newsletter 4 月号で写真(左) のように紹介された。

さらに筆者は、今年の 5 月 22 日にインターネット上で行われた iEARN Virtual Exhibition で、2018 年度に実施した

“Girl Rising”プロジェクトについての実践発表を世界に発信した。この実践報告会には、14 ケ国から 12 のプロジェクトが参加した。

5 月 22 日 (←) に実施された実践発表会のスライド資料



2.3. 2019 年度の授業実践

2019 年度は、本校の 18 名の生徒がプロジェクトに参加した。今年度はアメリカ、アルゼンチン、イスラエル、インド、ウガンダ、ジョージア、セネガル、チュニジアおよびフィリピンの高校生と協働学習をした。本校の生徒は **Girl Rising** プロジェクトを通して、女性であるがために現在でも人権を侵害されるような文化や風習があることを知り、この問題を解決するために自国の人々や周りの国々がどのように接していくべきかを他国の生徒と討議した。

まず 1 学期には、**Girl Rising** の映像のカンボジア、ネパール、ケニアの難民キャンプの少女のストーリーを取り上げた。このケニアの難民キャンプの少女は“**Brave Girl Rising**”として今年新しく **Girl Rising** に加わったストーリーである。

今回は、1 学期にポスターを作成し、昨年度と同様に **iEARN** の **Girl Rising** プロジェクトに投稿し、他国の生徒と学びを共有した。2 学期は、**Girl Rising** の映像のアフガニスタンとチュニジアの高校 3 年生が自主制作した映像を取り上げた。

◆アフガニスタンの少女 Amina のストーリー

(概略) アフガニスタンでは、女性が教育を受けることは良いことだと思われていない風潮がある。現在でも女性の価値は認められず、児童婚が存在する。Amina が産声をあげた時から、男の子ではない価値のない子供を産んだということで Amina の母親は悲しみ泣き叫んだ。Amina は 3 歳から水汲み洗濯をし、弟や妹の面倒をみて育った。Amina の一番の楽しみは、学校に行き、読み書きができることだった。タリバンが女子の教育を認めていなかったため隠れて学校に行けたのは数年のみであった。Amina は 11 才になった時、父親が認めた親戚の相手と結婚させられ、子どもを産むことになる。しかし、彼女は他の女性と異なり、学ぶことを続けた。Amina は読み書きができることで、本を読み知識を得ることができた。そして、Amina は現状を変えるために立ち上がった。



映像を見た後、生徒はそれぞれ感じたことを授業で話し合い、その後 **Girl Rising** プロジェクトのフォーラムで他国の生徒と共有した。以下は生徒の感想の一例である。

◇女子として生まれたことで、「従う人生」を余技なくされていたが、その社会の中で女の子としての誇りを持っていい、教育を受けていいと、先駆者となって「選ぶ人生」を得ようとしていた姿勢に感動した。児童婚、全身を青の布で覆われている現状を見るのはショッキングだった。

◇児童婚の現状は、歴史的な慣習や貧困など、多くの問題が影響しているので難しい問題だけれど解決しなくてはならないと思った。その中で立ち上がった Amina はすごいと思った。

◇女性の人権を尊重していない国で、女性の権利をどのようにして取り返すのが気になった。考え方の違いとか、周りに流されてしまっていてアフガニスタンの男性たちは、部外者(僕たち)が何を言っても通用しないように思う。だから、その国の女性が革命を起こすのはすごいことだと思うし、「僕にできることは何か」と考えさせら



れた。

また、授業では文化的規範が人権や尊厳を侵害すると感じた場合、それに対して発言すべきかどうかについて話し合った。以下は生徒の感想の一部である。

◇人権を侵害するような文化や風習に対しては発言していくべきだと思う。児童婚や児童労働、名誉殺人などは文化に化けた人権問題と捉えることもあると思う。しかし、どのような文化であれ、文化を大切にしてきた人々の勸化や大切にしたい思いがあり、尊重していきながら、ともに改善していくべきところや尊重すべきところを考えていくことが大事だと思う。

◇私たちは、教育を受けてどのような文化や風習が「違う」か、また「間違っている」かということを理解している。このような文化（児童婚）は人間のもつ潜在能力を覚醒させる権利を奪っているようなものであって、それを「間違っている」と言わない方がおかしいと思うし、それが当たり前になっているのは許して良いものではない。そのため、世界の人々が皆、ちゃんと「これは違うよ。」と伝えることから始めるべきだと思う。

◇国連のような大きな組織で、始めにその文化、風習が国際的にみて不合理、非常識であるかを、国に教え、国が民衆に地域レベルで NGO などの力を借りながら、正しい知識を与えるべきだと思う。そうすることで、人権を守るために必要な法の整備が可能になると考える。



Girl Rising のフォーラムでは、他国の生徒からも、自分たちの感想や意見が投稿された。

◇ *It is always okay to speak out against tradition. Tradition isn't inherently good; it's inherently limiting. Norms and regulations that do nothing but destroy freedom or happiness. You shouldn't wait until a tradition is a problem for you in particular, if it's a potential threat in anyway, you should speak out. However, you should gather evidence on why it's a threat since people won't believe you without evidence (or at least, a small amount of people would)* (アメリカの生徒より)

◇ *If at some point in my life they try to force me to stop studying and even more by order of a man, I will feel that all my rights and possibilities of life are collapsing since education thing to change the world, it is what unique that will make be someone in life. It is good to speak and in many cases to contradict some cultures and traditions that violate human rights and dignity. The only thing we can do is to persuade the importance of education and individual decision of a forced marriage without being killed for raising the voice.* (アルゼンチンの生徒より)

◇ *Honestly speaking, I have heard so much about the early marriages but I never imagined that they were this real. I send out my thanks to Amina for exposing what truly it means to us. We need to start with ourselves, just like Amina did. Like our headmistress always tells us, "Being the change begins with us. If you see something wrong going on in your country, then stand up and talk about it. "Your voice could really save so many people out there, your*

silence does no one any good." I have been encouraged to speak out and surely I will. Anything you do in this world affects it either negatively or positively, the choice really is yours. (ウガンダの生徒より)

◇ *I think Amina is very brave to go against her culture. She thinks that if she won't be alone she can change this tradition. I think she stood up for herself, because she wanted to go to school. When you feel violated you should go against it, and in this world there will be someone who listens to you and help you. There is a lot of people out there like Amina and they can't raise their voices, because they are afraid of death. But I think if this girl will be brave to speak for themselves they can solve all of their problems. (ジョージアの生徒より)*

◇ *I was inspired to stand up and be a voice to every girl's rights. It is really a bad situation. A young person will just follow the flow of the world's surroundings but Amina move forward representing the rest. If education will be stopped, Poverty comes within. Personal Ideas will not be mold to create change and transformation. Illiteracy will results to young people engaged into crimes and bad habits. Speaking Out against Cultural Norms is good inclined with defending your rights and betterment. Norms and Rules are set for reasons. To what happened with Amina is not even reasonable. There is no logic and philosophical standards on it. Dreams are depth and beyond the limit, there are no set rules. Amina's action is what we called, "GIRL POWER". (フィリピンの生徒より)*

以上のように、多様な国の生徒が同じ問題についてどのように考えているのか意見交換することで、物事を多角的に見て、自らの視野を広げることがため、生徒の学びはより豊かになる。

◆チュニジアの生徒が制作した映像 “SHE MADE IT TO THE TOP”

今年度、私たちを一番驚かせ、さらに学びを深める要因となったのは、チュニジアの生徒達による自主制作映像 “SHE MADE IT TO THE TOP” である。

この映像は、貧困に苦しむ母子家庭に育った少女が教育を受けることによって、自分の将来を切り開いていくストーリーである。主人公の少女は自分の望んでいる仕事に就き、今度は自分と似た境遇に苦しむ少女たちに教育の機会を与える人となる。この映像は、チュニジアの学校の英語クラブの 12 人の生徒によって制作されたものだ。映像の世界観や演出のメッセージ性が素晴らしく、クオリティがとても高かった。この映像は、以下のサイトで鑑賞することができる。



Girl Rising film (produced by '9 Avril' school students, Sfax, Tunisia)

<https://www.youtube.com/watch?v=G8-rrKXmOR4&feature=share&fbclid=IwAR3mj2jGY5EzfNu2M8h17QDUBYSROMckZP4VLS-GsKCxSLZXXBVZVjcn5E>

本校の生徒は、2 学期にこの映像を見て、同学年の高校生がこのようなアクションを起こしたことに驚くと共に、チュニジアという国と映像の内容について興味、関心を持つようになった。そこで

Girl Rising プロジェクトのフォーラムで、チュニジアの生徒達にたくさんの質問を投げかけた。例えば「映像に出てくるような境遇で育つ少女は多くいるのか」「少女がはじめに住んでいたような住居はチュニジアでは普通の建物なのか」「少女が成功するためにどのようなサポートが実際にあったのか」などの質問をした。これに対して、チュニジアの生徒から「一般的にはみんな教育を受けることが出来るが、田舎では貧困家庭においてまだ児童労働が存在する」「映像に使用された場所は実在する」「主人公の少女は NPO のサポートを受けた」などの回答があった。

◆日本における女性格差問題

チュニジアの生徒から刺激を受けて、本校の生徒は日本で **Girl Rising** を制作するとしたら、どのような境遇の女性をテーマにするか授業で話し合った。その結果、社会における様々な問題が見えてきた。以下は、生徒から出た意見である。

- ・子育てをしながら仕事をする母親の苦勞
- ・男性が有償労働で家計を支え、女性が家事育児をするのが当然だという固定観念
- ・医学部の入学試験に女性差別があった問題や女性医師が少ない現状
- ・女性議員の割合が他国と比べて低い現状
- ・女性はアイドルのような可愛い存在であるべきだという偏見

この話し合いによって、日本にも「女性であることがために差別がある」という問題について考える機会となった。

生徒は、授業で話し合ったこれらの日本の問題について、**Girl Rising** プロジェクトのフォーラムで紹介した。するとチュニジアの生徒から、以下のような返信が返ってきた。

- ・日本は完璧な国だと思っていたので驚いた。
- ・日本の医大で、女性の数が男性よりも少ないことにショックを受けた。
- ・チュニジアは開発途上国だが、医大で学ぶ女性の数は 78%であるのに対し、男性は 32%である。
- ・日本のアニメやドラマを見て育ったけれど、女の子たちが学校でも家でもどこでも可愛らしくふるまい、自分をいつわっているような姿は健全とは思えない。
- ・本来の女性の力強さや大胆さを失っているように思う。

◆Zoom 会議

このようなやりとりを通して、本校の生徒とチュニジアの生徒との交流が深まっていった。その結果、11月下旬に Zoom による遠隔会議を実施することができた。生徒は、実際にスクリーンを通して



お互いの顔を見ながらコミュニケーションをすることを楽しんだ。特に、本校の生徒にとっては、チュニジアの映像“SHE MADE IT TO THE TOP”に出演していた生徒と直接話せることに大感激であった。また、チュニジアの現状を彼らから直接聞くことにより、文化や環境が異なることで考えの相違が生まれることを知った。自国の問題について熱く語る彼らの姿を見て、この問題に取り組む真剣な気持ちが伝わった。彼らの情熱を見て、世界を少しでも変えようとしている人たちであることが分かり、尊敬の気持ちが加わった。そして、自分たちも積極的に自国の問題に関わらなければならないという責任感が生まれた。さらに、本校の生徒が驚いたことは、チュニジアの生徒にとって、日本は先進国の一つであり、とても発展している国だという印象があることだ。しかし同時に、日本が特に女性格差の面で問題を抱えていることに対しての認知度が低いことに驚いた。

遠隔授業を通して、両国の生徒は同年齢で同じ地球に生きる者として SDG s「持続可能な開発目標」の「質の高い教育」と「ジェンダー平等の実現」に対して積極的に関わっていく意識を再確認することが出来た。

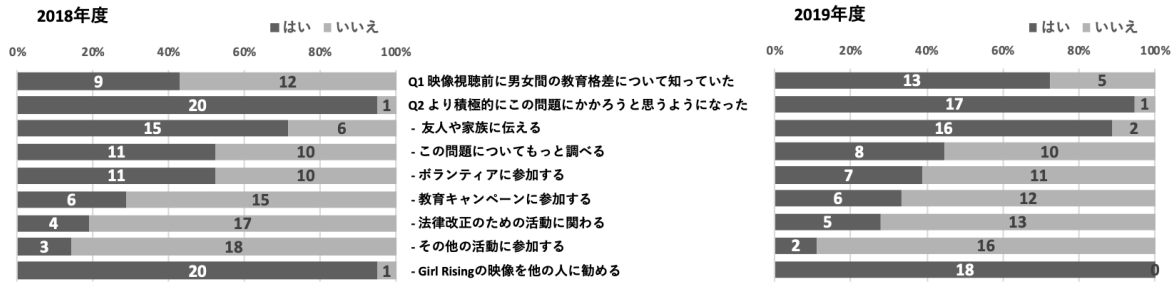
◆Girl Rising プロジェクトの振り返り

生徒は、他国の生徒と共に協働学習をすることにより、多くのことを学んだ。以下に Girl Rising プロジェクトを通して学んだ生徒の振り返りの一例を紹介する。

- ◇女子が教育を受けないと能力を発揮できないために、自立が出来ないことを知った。将来の選択肢があることも知らないために、将来につながるような興味ある分野や仕事も見分けることができない。母親になっても、衛生や経済面についても無知なままにいるために家族は貧困の連鎖から抜け出すことができない。この事を他国の生徒と共に学習することが出来た。
- ◇多くの異なる意見に触れ、刺激的だったし、効率的に作業ができた。世界の貧困地域で、女性差別が起こっており、人権が守られていないことを知った。私達は、そのまま他人事と思わず、人権を尊重することをしっかり考える必要性を知った。
- ◇女子の可能性を妨げる要因には、文化・風習、価値観の違い、貧困などがあることを知ることが出来た。自分が不自由なく自由に表現でき、教育を十分に受けられていることの特別さを知り、また、自分の置かれている環境に感謝し、与えられた機会を無駄にすることなく使い、得たことを苦しむ世界の人々の助けに繋げたい。
- ◇協働学習を通して、多くの生徒が教育は、ただの勉強だけではなく、強く生きるために必要なことを教えてくれた。教育は、私たちの持つ能力の限界を広げまたコントロールされる人生ではなく、自由に自分の人生を生きるための選択肢を与えてくれることを知った。
- ◇このプロジェクトに参加し、他国の人々と対話することが出来た。色々な人と話し、様々な意見を聞くことができ、多角的な視点で問題と向き合うことができた。もちろん、クラスの中でも話し合えるが、その規模を世界にすることによって、得られるものが格段に違う。世界について知ることができ、良い経験になった。

3. Girl Rising プロジェクトの評価

以下は 2018 年度と今年度 Girl Rising の映像を見た後に生徒がアンケートに回答した結果である。

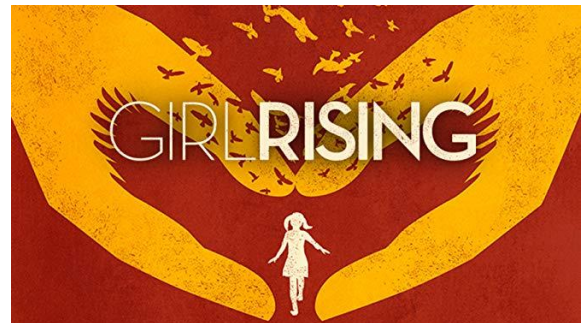


アンケートの結果から、Girl Rising プロジェクトに参加することによって、ほとんどの生徒がより積極的に女子教育の大切さを知ったことが明らかになった。そして、本プロジェクトが知識を得るだけでなく、アクションを起こすきっかけとなったことも示唆された。

4. 成果

Girl Rising の少女たちは、大きな困難の中にあっても諦めず、自分たちの夢を達成するために立ち上がり、行動する。その姿を視聴し、他国の生徒と意見交換することにより、生徒たちは勇気と力を得て、自分たちも何かしなければという思いになる。このように Girl Rising のムーブメントは、プロジェクトに参加する生徒たちが力強い地球市民になるように力づけることの相互の繋がりも生み出すきっかけとなっている。

毎年、本校では国際理解の授業で Girl Rising プロジェクトに参加した後に、実践している活動がある。それは、インターネットを通じて開発途上国の起業家に融資できる“Kiva”に参加し、実際に授業の中でマイクロファイナンス（貧しい人たちを対象にした小口金融サービス小規模融資）を体験することである。Kiva では貧困から抜け出すため、未来に向けて真摯に努力する起業家が紹介されている。授業では、一口（25 ドル）を「融資」して支援する体験を行っている。また、Kiva では起業家が融資額を返済したら、再び別の起業家に融資することが可能である。そのため、前年度から受け継いだ融資額を利用して、毎年融資することができている。授業では、グループごとにプレゼンテーションを行い、誰になぜ融資すべきかを生徒同士で決める。本校は、2010 年から融資を始め、毎年、様々な国の起業家に融資を行ってきた。最近では、生徒が女性の起業家を支援する割合が高くなっている。そして昨年度より、Girl Rising プロジェクトで協同学習をしているアメリカの高校 Sunburst Academy の生徒も Kiva の実践を開始した。そのため今年度からは、Sunburst Academy と協力して女性の起業家をより支援することができた。



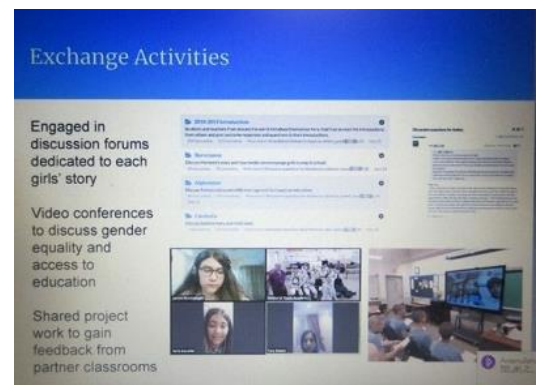
さらに、本校は 2012 年度より社会問題の課題解決のために、カンボジア支援を継続して行っている。2018 年に文部科学省主催で実施されたスーパーグローバルハイスクールフォーラムでは、「カンボジア裁縫プロジェクト」についてポスター発表を英語で行い、2 年連続で審査員特別賞を授与することが出来た。国際理解の授業には「カンボジア裁縫プロジェクト」でリーダーシップを発揮し、活躍している生徒がいる。以下は、それらの生徒の感想である。

◇もっと世界に目を向けようと思うと共に、知るだけでなく行動に移さないと何も変わらないことをさらに感じた。ボランティアや社会貢献をする上で自分のやることに自信を持ってやっていくことの大切さを知った。

◇私達とは全く異なる世界で戦っている女の子がいることを改めて認識することができた。そして自らの環境に疑問を抱き、アクションを起こし、立ち上がった彼女たちは、とても強いと思った。画面上でしか現状を知ることしか今はできないけれど、私達が今できることを毎回考えることができた。

◇インドの生徒がマハトマ・ガンディの言葉を共有してくれた。 *"Your beliefs become your thoughts. Your thoughts become your words. Your words become your actions. Your action become your habits. Your habits become your values. Your values become your destiny."* この言葉を私は一生忘れない。これからの活動に生かしていきたい。

2019年11月にオンラインで世界の教育者が繋がる
The 9th Annual Global Education Conference が開催され、筆者は iEARN の実践報告 Co-presenter として、“Girl Rising”プロジェクトの成果発表を行った。この会議は、Blackboard Platform を使用して実施され、世界中の 3,500 名の教育者が参加した。この取り組みについては、JEARN のホームページ上で閲覧することができる。 <https://www.jearn.jp/globalevents.html>



◆参考文献

iEARN. (n. d.). iEARN <https://iearn.org> (2019年11月1日参照)

JEARN. (n. d.). JEARN <https://www.jearn.jp> (2019年11月1日参照)

栗田 智子. (2019). アイアーンの国際協働学習とは何か -国際協働、プロジェクト学習、主体的・対話的で深い学び、グローバル・コンピテンスの視点から-. 国際協働学習 iEARN レポート. 文部科学省. (n. d.). WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアムの構築に向けて https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/1412062.htm (2019年11月1日参照)

坂本 旬. (2008). 「協働学習」とは何か. What is "collaborative-learning"? 生涯学習とキャリアデザイン = 生涯学習とキャリアデザイン (5), 49-57.

鈴木 敏恵. (2012). プロジェクト学習の基本と手法: 課題解決力と論理的思考力が身につく. 東京: 教育出版.